

学校教育目標	「なかよく かがやき のびゆく子」 知: 課題解決に向け、進んでねばり強く学ぶ子を育てます。 徳: 豊かなかかわり合いを通して、思いやりのある子を育てます 体: 明るく、元気に、のびのび過ごせる子を育てます。 公: 地域、社会の中で正しく生きようとする意欲と実践力を育てます。 開: 社会の変化に主体的に対応できる力を育てます。					
	学校概要	創立 131 周年	学校長 鶴飼 数夫	副校長 元田 光二	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 5
	児童生徒数:	581 人	主な関係校: 上永谷中学校・永谷小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	上永谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <問題発見・解決能力> <言語能力>	上永谷中学校 永谷小学校 永野小学校(本校)	「自己肯定感を高め主体的な人となる」 ・進んでかかわり合う学びの姿をめざして～分析的児童理解を生かした集団づくり～をテーマにYPを活用して子ども達の成長を推進する。 ・「笑顔であいさつできる子ども」の実現に向けて、児童・生徒一体になった活動を支援 ・小中9年間を通した基本的な生活習慣の定着に向けた取り組みの発信。

中期取組目標	○子どもたちの自己肯定感を大切に、「よりよい自分づくり」を後押しする学校にします。 ・子どもたちの学習に対する意欲や、問題を解決する能力を高めます。 ・自他を大切にできる心情や態度を育てていきます。 ・自らの心身を成長させるために、学習に取り組む力や態度を育てます。 ・学校や地域の約束を守り、集団の中でよりよく生きようとする子の育成を目指していきます。 ・非常時の安全対策の充実、自分が何をすべきか判断できる職員や子どもたちを育てます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	①学習中における支援児童の把握を的確に行い、教科・領域のもつ価値と教師の手立てを一致させることで、全児童の学習に対する意欲を高める。②各教科の基礎基本の定着はもちろんのこと、子どもたちが日常で直面するであろう問題を自分事としてとらえ、解決できるような能力を高めるため、問題解決的学習の充実を図る。
徳 豊かな心	①道徳の時間やたてわり活動を通して、同じ学年の友達や異学年の友達の考えを受け入れつつ、自己の考えを適切に表出しながら、関わり合うことができるようにする。②友達との学び合いを通して、できる喜びや達成感を味わえるような場を設定し、自信や意欲を高めていく。
体 健やかな体	①体育の学習で自分の課題を確認する時間を設け、その課題を解決するためにめあてをもてるようにする。②見通しをもって主体的に運動や健康の学習に取り組むことができるようにする。③運動委員会主催の集会などを設定し、目標をもって意欲的に運動に取り組めるようにする。
公開 自分づくり (キャリア教育)	①地域の材を中心にいろいろな人と関わる場面を設け、他者との関わりの中で一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。②学年に応じて、外部講師や企業と関わる活動を年間計画に位置付け、学ぶことの意義を考える場を設定する。
いじめへの対応	これからも、いじめについての認知のハードルを低くもっていき、見逃し、見落としこそ重大事案につながることを気付けるように専任をはじめ、各部会、TM教諭が意識する。・児童のいじめ解決についての認識も、加害、被害の特定ではなく、お互いの関係を整えていくことを大切にしていけることが問題を大きくこじらせないことを伝えていく。
特別支援教育	①個別の支援計画・指導計画を保護者とともに作るという意識で、アセスメントをしっかり行い、活用していくようにする。②個別支援級の児童についての理解、人権についての理解を深められるような職員研修や学習を取り入れていく。③「ハートフル永野」に在籍する児童の学習の仕方、そこからの支援の仕方について考えていく。④一般級において特別な支援が必要な児童について、特別支援委員会などで継続して支援のあり方を考えられるようにしていく。
児童・生徒指導	専任、管理職を中心に、担任、級外、TMなど組織で取り組む。SC、SWW、子家、児相、各関係機関をうまく活用し、学校だけで対応できない事案があることを意識する。・情報が担任どまりにならないように風通しの良い情報共有を恐れないようにする。
地域連携	①学校運営協議会と地域協働本部を核とした地域連携と学校協力体制をさらに実効性のあるものにしていく。②復活してくる地域行事に、子どもや教職員が積極的に参加できるようにしていく。③学校HPIは、組織的に運営できるようにしていくと共に、学校You tubeチャンネルの開設を行い、積極的な情報発信をしていく。
安全管理	①各防災・防犯訓練や交通安全教室を通し、日常的に自分の身は自分で守り、安全に行動できるようにする。②毎月の安全点検を確実にし、子どもの安全を軸に、必要に応じて設備の修繕・保守をしていく。③交通安全推進校として、データをもとにした取組を行う。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師としてサポートしつつ、外部講師を招かない授業研を行い研究のスリム化を図る。②学年研究会やブロックでの話し合いの充実を図りながら、中・高学年では一部教科担任制を導入し、「授業」と「児童指導」について、常に話し合える環境をつくっていく。③会議において、協議事項と連絡事項を事前に整理し、議題精選を徹底することで、効率的に話し合いを進められるようにする。